

クリイロマンジ *Pseudodaphnella leuckarti* (Dunker)

【選定理由】

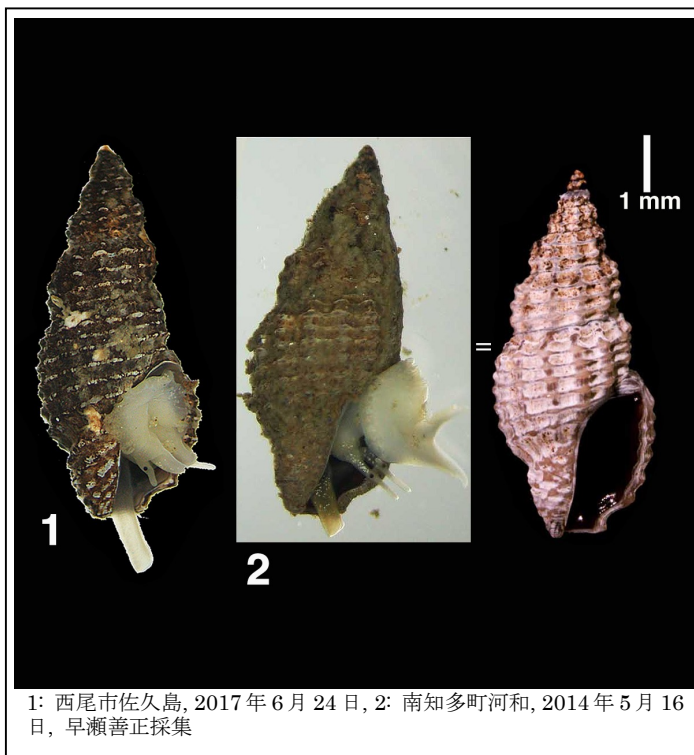
内湾に分布するイモガイ上科の小型種には希少もしくは絶滅危惧種ではないかと考えられる種は少なくないが、種数が多く、モニタリングが十分ではない。本種はその代表的な種で、かつて岩手県、男鹿半島以南、東京湾、伊勢湾、三河湾、瀬戸内海、博多湾で普通に見られた種であるが、現在生息地点と個体数が減少している (例えば山下, 2012)。

県下では近年、いずれも三河湾の知多半島河和 (早瀬・木村, 2017)、梶島 (早瀬・他, 2016)、佐久島 (早瀬・木村, 2020)、日間賀島 (早瀬・他, 2019) で健全な個体群を含めた生息が確認されている。近年、伊勢湾、三河湾の外洋水の影響が強い潮通しの良い浅海域の一部では、窒素・リンの流入負荷減少に伴う水質及び底質環境の明らかな改善傾向が認められるようになり (早瀬・木村, 2017)、本種の生貝が確認できるようになったと考えられる。しかし、本種は潮間帯の埋没石や転石下に生息する小形種で、水質汚濁、底質環境の泥質化、有機物量の増加、貧酸素の発生等により生息基盤が脅かされる種と考えられる。

以上より将来的に絶滅危惧に移行する危険性がある種と評価された。

【形態】

殻長 7 mm 前後、殻は細長い紡錘形で殻表には粗く強い格子目状の彫刻がある。成熟個体の殻口は厚く肥厚し、狭く、殻口後部にはやや深い切れ込み (肛湾入) がある。殻の色彩は生きている個体では濃褐色の単色であるが、老成個体や死殻では灰褐色となる。蓋はない。



1: 西尾市佐久島, 2017年6月24日, 2: 南知多町河和, 2014年5月16日, 早瀬善正採集

【分布の概要】

【県内の分布】

県内では4ヶ所で生貝が採集され、特に梶島、佐久島では健全な個体群が確認された。

【世界および国内の分布】

朝鮮半島、岩手県・男鹿半島～九州の中・低潮線から水深 20 m に生息する (山下, 2012)。

【生息地の環境／生態的特性】

本種は外洋水の影響のある潮通しの良い内湾の潮間帯下部から潮下帯の転石地の浅く砂に埋もれた石下面に生息する。生態的特性はほとんど知られていないが、本種の分類群や歯舌の形態から肉食性であると考えられる。

【現在の生息状況／減少の要因】

現在県下では生息海域は狭く、個体数は多くない。上述のような本種の生息環境自体が消失したことが一番大きな要因と考えられる。

【保全上の留意点】

本種の生息環境である上述したような生息環境を保全することが重要であろう。

【引用文献】

- 早瀬善正・木村昭一, 2017. 河和 (三河湾) の内湾潮間帯の貝類相. ちりぼたん, 47 (1-4): 28-42.
早瀬善正・木村昭一, 2020. 佐久島 (三河湾) の潮間帯貝類相. ちりぼたん, 50 (1): 33-79.
早瀬善正・木村昭一・河辺訓受・川瀬基弘・林 誠司・西 浩孝・守谷茂樹・石井健一郎・大貫貴清・岩田明久・仲田彰男, 2016. 梶島 (三河湾) の潮間帯の貝類相. かきつばた, (41): 27-39.
早瀬善正・木村昭一・西 浩孝・守谷茂樹・岩田明久, 2019. 日間賀島 (三河湾) の潮間帯貝類相. かきつばた, (44): 1-15.
山下博由, 2012. クリイロマンジ, p.76. in: 日本ベントス学会 (編) 干潟の絶滅危惧動物図鑑 海岸ベントスのレッドデータブック, 285pp. 東海大学出版会, 秦野.

(木村昭一)